

越谷市内とその周辺の河川の歴史

第1回 9月12日(水)

河川の変遷

この学習冊子は、主に「水のFORUM (フォルム) Volume 11」の資料を利用して作成しました。

(発行日2011年3月、作成はNPO法人 水のフォルム事務局、文章は藤原悌子氏)

また、この資料の作成にあたっては、秦野秀明氏の協力を得ましたことをここに記します。



荒川の 水源： 奥秩父の甲武信岳（こぶしがだけ、富士川と信濃川の分水嶺）

利根川の水源地： 群馬県の大水上山（おおみなかみやま、新潟県南魚沼市と群馬県利根郡みなかみ町の境）

荒川は、下流の川越市古谷本郷（ふるやほんごう）で荒川水系最大支川の入間川と合流（上江橋下流）。

荒川は、岩淵水門で、隅田川と分かれる。現・荒川（荒川放水路）と現・隅田川（鐘ヶ淵まで荒川、鐘ヶ淵から隅田川）

隅田川は、石神井川（対岸は足立区宮城）、神田川（両国橋上流）、日本橋川（永代橋上流）と合流し、

その後は佃島西側の佃大橋、築地の勝鬨橋、汐留駅そばの浜離宮へと流れ、東京湾に注ぐ。

江戸時代の「荒川の西遷」（元荒川→荒川）と「利根川の東遷」（古利根川→利根川）

日本一広い氾濫原を人の住める土地に、武蔵東部低地の治水と水田開発、水上交通網の確立、東北諸藩に備えての北関東の外堀。縄文海進（六千年前）で、荒川低地では川越付近の入間川あたり、中川低地では古河付近の渡良瀬遊水池あたりまで、奥東京湾が入り込んでいた。

大宮台地とその北の館林台地がつながっていた頃（2万年前の洪積世）



〔水のフォーラム〕より抜粋

利根川と荒川は、行田のあたりで合流し、大宮台地の西側（現、荒川低地）を流れていた。
渡良瀬川と思（おもい）川は、古河のあたりで合流し、大宮台地の東側（現、中川低地）を流れていた。
富士見市の南畑（なんばた）の荒川近くの縄文海退期の地層に利根川が運んだ軽石粒が多量にある。
利根川と荒川が合流して、その下流は、現在の荒川が流れる荒川低地を流れていた証拠になる。

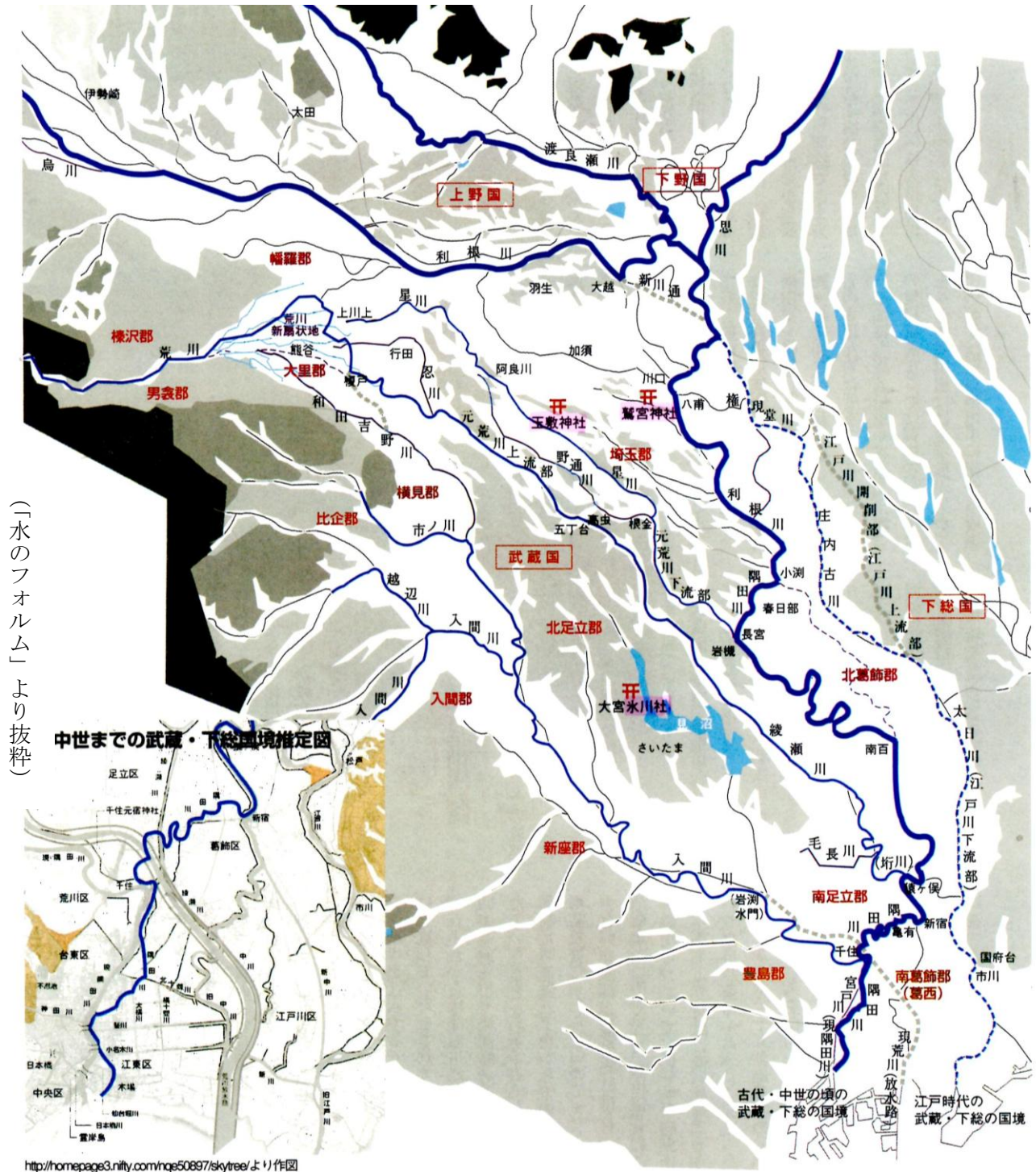
大宮台地と館林台地の間に加須低地ができた以降の頃（4000年前の縄文時代）



〔水のフォーラム〕より抜粋

春日部から加須にかけての関東造盆地運動によって加須低地ができ、荒川扇状地（洪積台地）の押出による熊谷付近の河床の上昇もあって、その加須低地で利根川と荒川は合流し、今度は大宮台地の東側の中川低地を流れる。
関東造盆地運動は、2箇所あって、春日部から加須にかけての他に、もう一つは現在の東京湾。

古代・中世の頃



かつての利根川（下流では「隅田川」と呼ぶ）は、古利根川（春日部市）から古隅田川（春日部市）、元荒川（越谷市）、中川（吉川橋以南）、古隅田川（足立区）、隅田川と流れていたと推定されている。

当時の元荒川は、利根川（隅田川）だった。

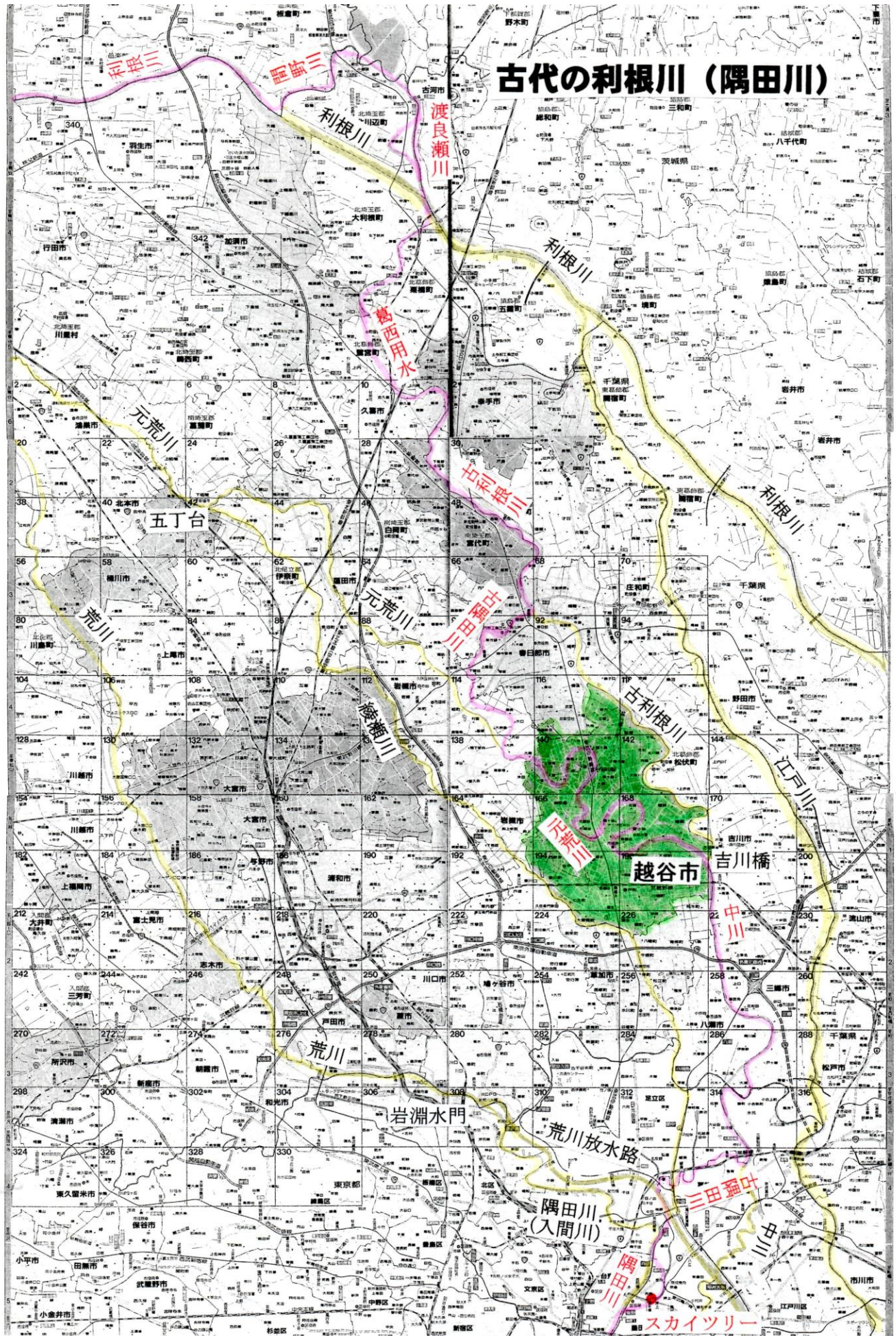
上野国は、南は利根川（武蔵国）、北は渡良瀬川（下野国）が国境。下野国は、渡良瀬川が武蔵国との国境。現在の白髭橋から牛島神社にかけては隅田川の河口で、牛島と呼ばれた島があり、武蔵国に属していた。

現在の高さ634（むさし）メートルのスカイツリーは、当時、武蔵国に属していたことになる。

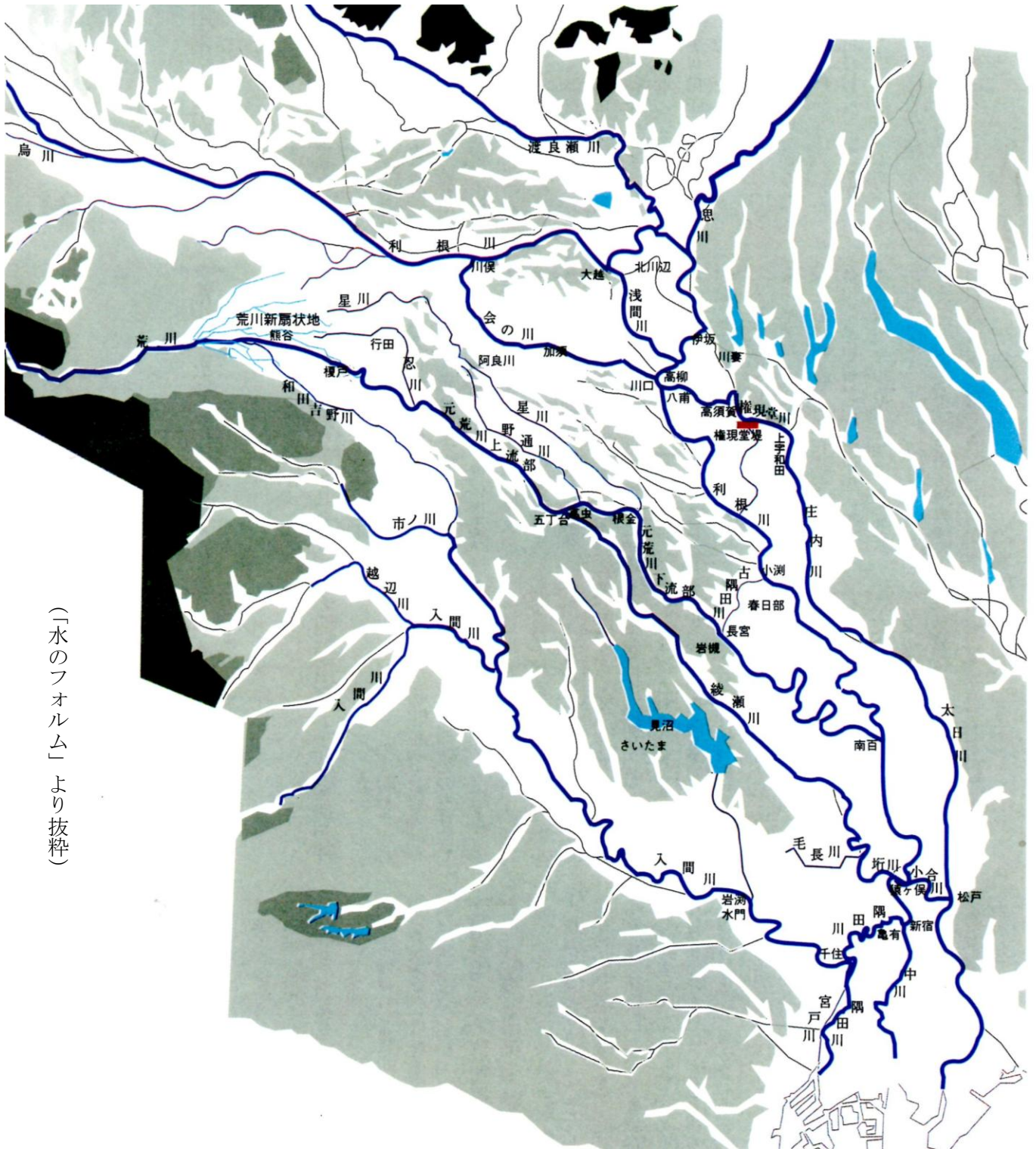
牛島神社の神は、武蔵（足立郡）に見られる氷川社と同じ素戔鳴尊を祀る。西側の隅田川は宮戸川と呼んだ。図の中央の「玉敷神社」は、かつては「久伊豆神社」と呼ばれ、埼玉郡の総鎮守。騎西領48カ村の総氏神。

※図では、五丁台と高虫の間の台地上に流れる現在の川は、開削された人工河川を示しています。

古代の利根川（隅田川）



江戸時代間近の利根川と荒川



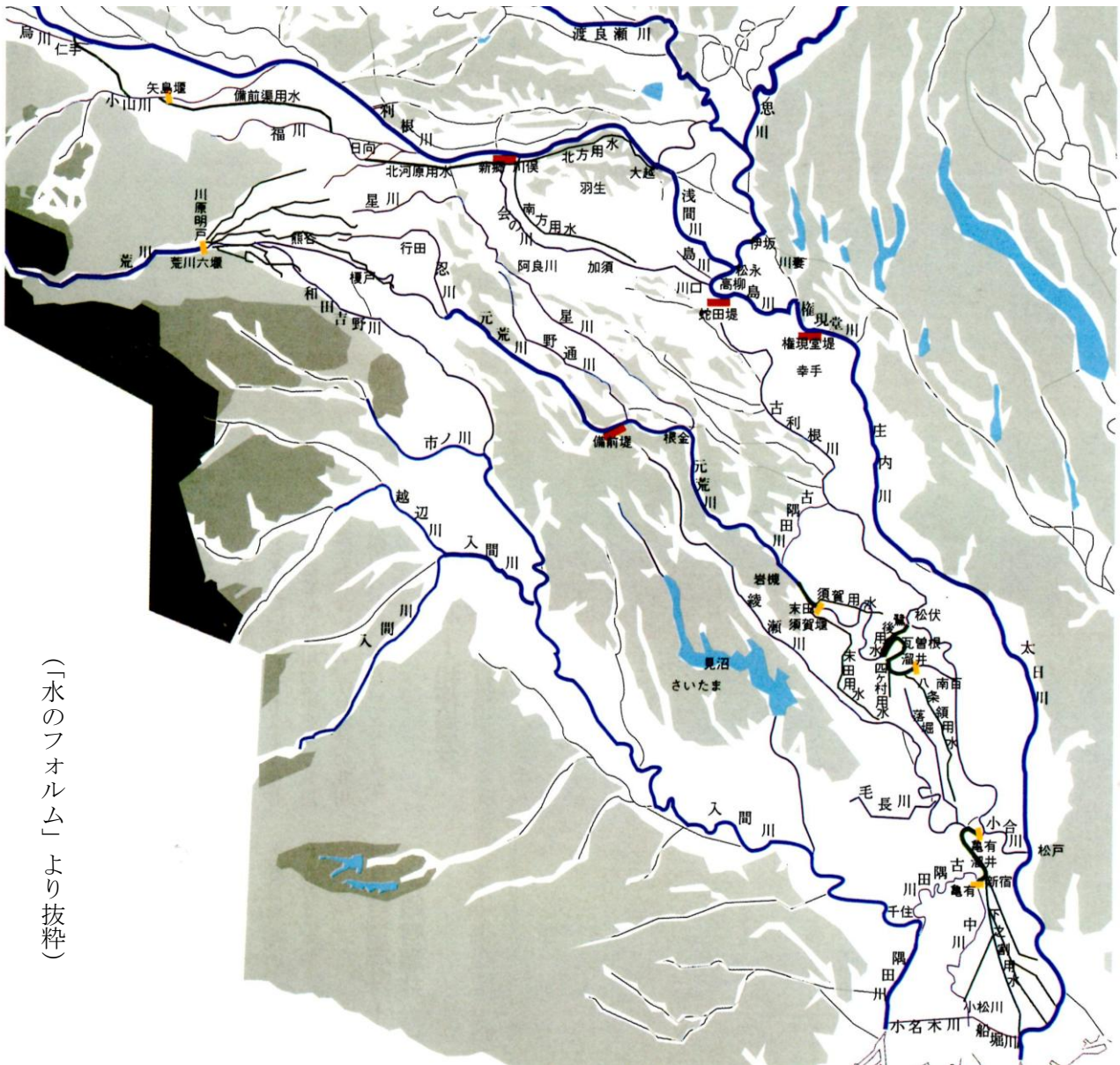
(「水のフォーラム」より抜粋)

- ・会（あい）の川（南利根）は、川俣（羽生市）～川口（加須市）
- ・浅間（あざま）川（東利根）は、埼玉大橋の佐波（ざわ、旧大利根町）～阿佐間（あざま）～川口（加須市）
- ・北川辺町迂回の北利根は大越～間野川（合の川・あいかわ）～渡良瀬川～佐間（さま）東交差点～浅間川合流※
→これが武蔵国と対岸の上野国・下野国との国境を流れた古代からの利根川筋 ※東交差点の西五百㍓
- ・加須市川口から南流する古利根川（葛西用水～琵琶溜井～古利根川～南百）→対岸下総国境の中世の利根川筋
- ・加須市川口から東流する東西権現堂川・後の島川（八甫～上宇和田）→庄内川→金杉台地・太日川（江戸川）
- ・権現堂堤（八甫[高須賀との説もあり]～上宇和田）は、蛇田堤の築堤後の天正4年（1576）後北条氏が築く。
- ・当時の元荒川は荒川、当時の古利根川は利根川だった。

※島川が権現堂川の手前で元栗橋方面に迂回している流れは、南北権現堂川の開削説を補強する。

江戸幕府成立の前後の頃の利根川と荒川

文禄（1592—1596）から慶長（1596—1615）



〔「水のパルム」より抜粋〕

江戸時代以前

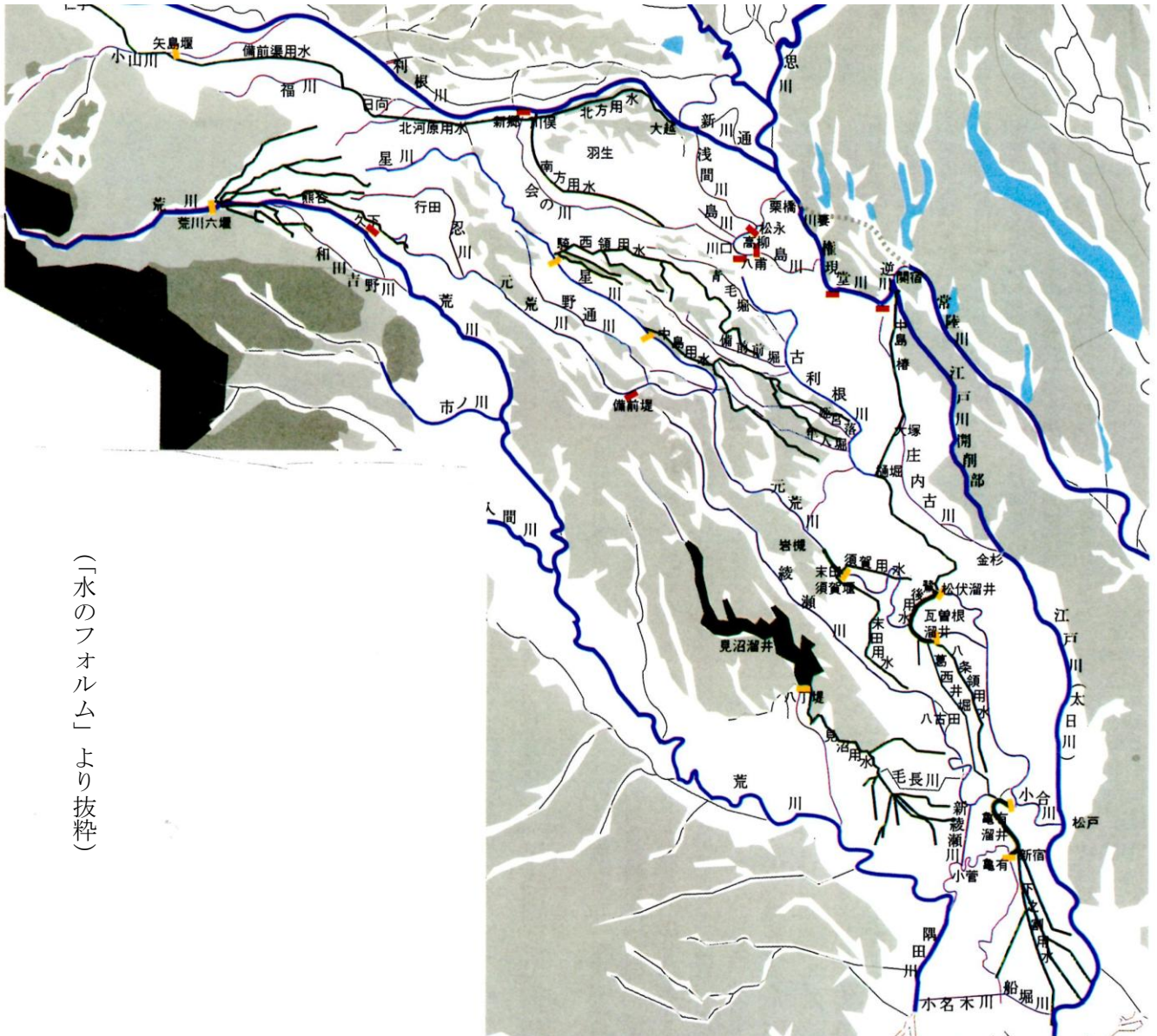
- ・利根川は加須市川口で蛇田（じゃた）堤を築く（**天正2年**、1574）。それ以後、今までの下流を**古利根川**と称す。
利根川は、浅間（あざま）川→八甫→東西権現堂川→庄内川→太日川→江戸湾と流れる（「**新利根川**」）。
- ・会の川（南利根）が、新郷（昭和橋そば）で締め切られる（川俣締め切り、**文禄3年**[1594]）。
会の川から佐波（埼玉大橋）の浅間（あざま）川（東利根）が利根川の主流となる。**利根川東遷の開始**。
- ・猿ヶ俣で、利根川は二派に分かれる。
亀有溜井（猿ヶ俣と新宿にいじゅくの間、現在の中川橋あたりまで）を文禄年間に築くと東流する小合（こあい）川、それに続く太日川は古利根川の本流となる。
一方の川は、中川と称する。南方のデルタ地帯に、塩分のない水が必要だったからかもしれない。
以後、亀有（亀有溜井）・千住間の隅田川は古隅田川と称する。現・足立区と葛飾区の区境を流れた。
- ・荒川（現・元荒川）の五町台に備前堤築く（伝、慶長年間、伊奈備前守忠次→疑問）。綾瀬川が荒川から分離。
→綾瀬川の起点、備前堤の築堤と高虫の開削人工河川は、中世に同時に行われたと推定されている。

江戸時代以後

- ・瓦曾根溜井を造成し、八条領用水・四ヶ村用水を引く（慶長19年、1614）。

江戸時代初期の利根川と荒川

元和（1615—1624）～慶安（1648—1652）

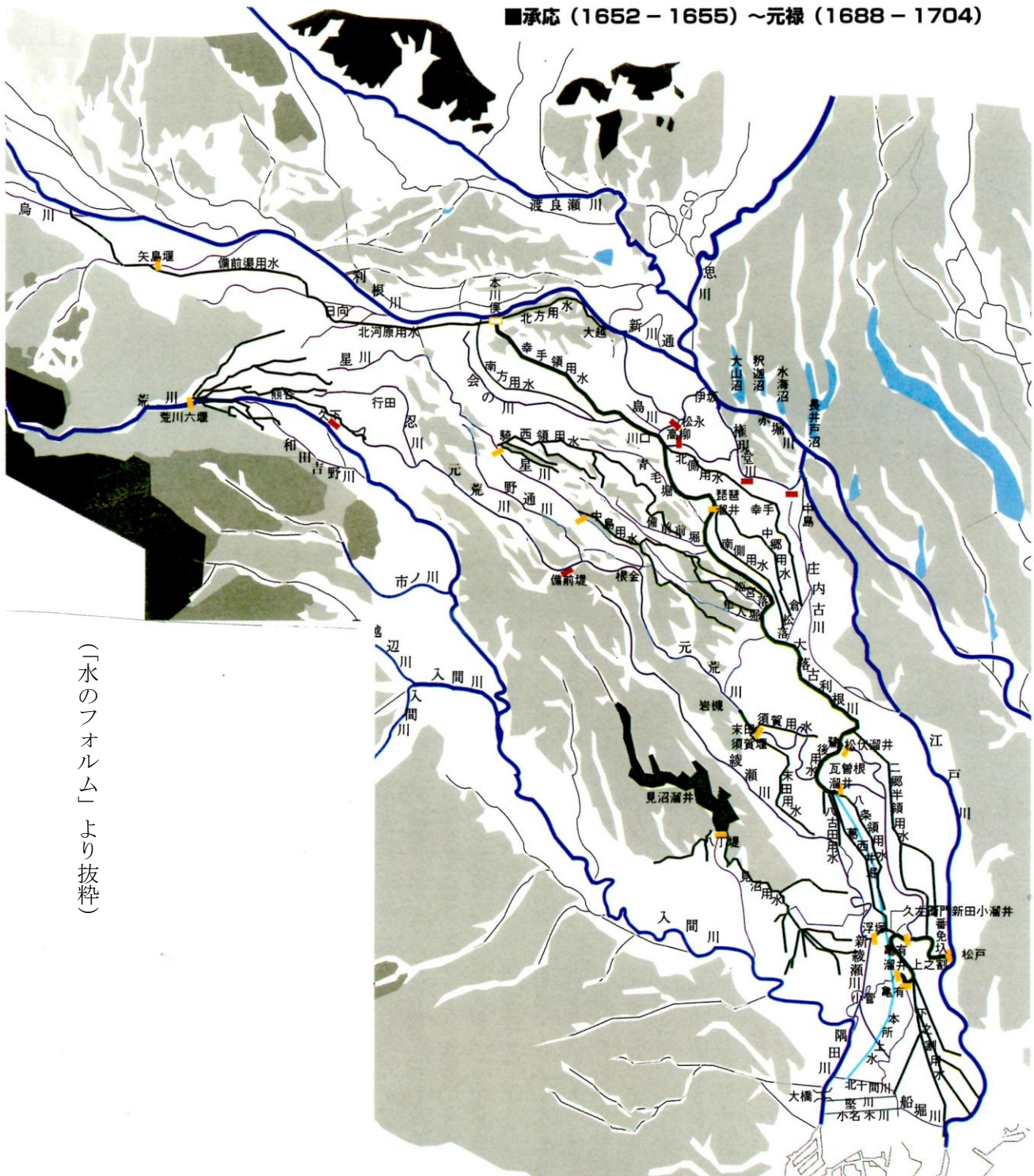


(「水のパオラム」より抜粋)

- ・利根川の新川通りの開削。元和7年（1621）※その後も、幅員の拡幅工事が数回にわたり行われる。
決壊流路（本間清利説、誤りか）といわれる南北権現堂川（開削説あり）が利根川・渡良瀬川の流路となる。
南北権現堂川→東西権現堂川→庄内川→太日川（現・江戸川）
浅間川（高柳と間口の間の十王）や島川（八甫）の締め切りと廃川化。
- ・荒川の西遷。寛永6年（1629）
荒川の久下（くげ）先で和田吉野川に付け替えて、市野川、入間川筋に流れる。
それまでの荒川は元荒川と称されるようになる。
- ・元荒川の直線化
水量が減ったため、花田村を迂回して流れていた荒川をこの年（本間清利説）に直線化にする。
- ・綾瀬川の直線化
寛永年間（元禄年間とも）に谷古田（やこだ）領の迂回流路を直線化し、
更に、寛永18年（1641）に内匠新田と小菅間に新流路を開削した。
- ・江戸川の開削（寛永17年着工・正保2年終了《長堀榮氏の新説》、寛永12年着工・寛永18年完成《従来の説》）
この頃、庄内川の流頭を締め切る。それ以降、庄内古川と呼ばれる。利根川の主流が江戸川となる。

江戸時代前期の利根川と荒川

■承応 (1652 - 1655) ~元禄 (1688 - 1704)

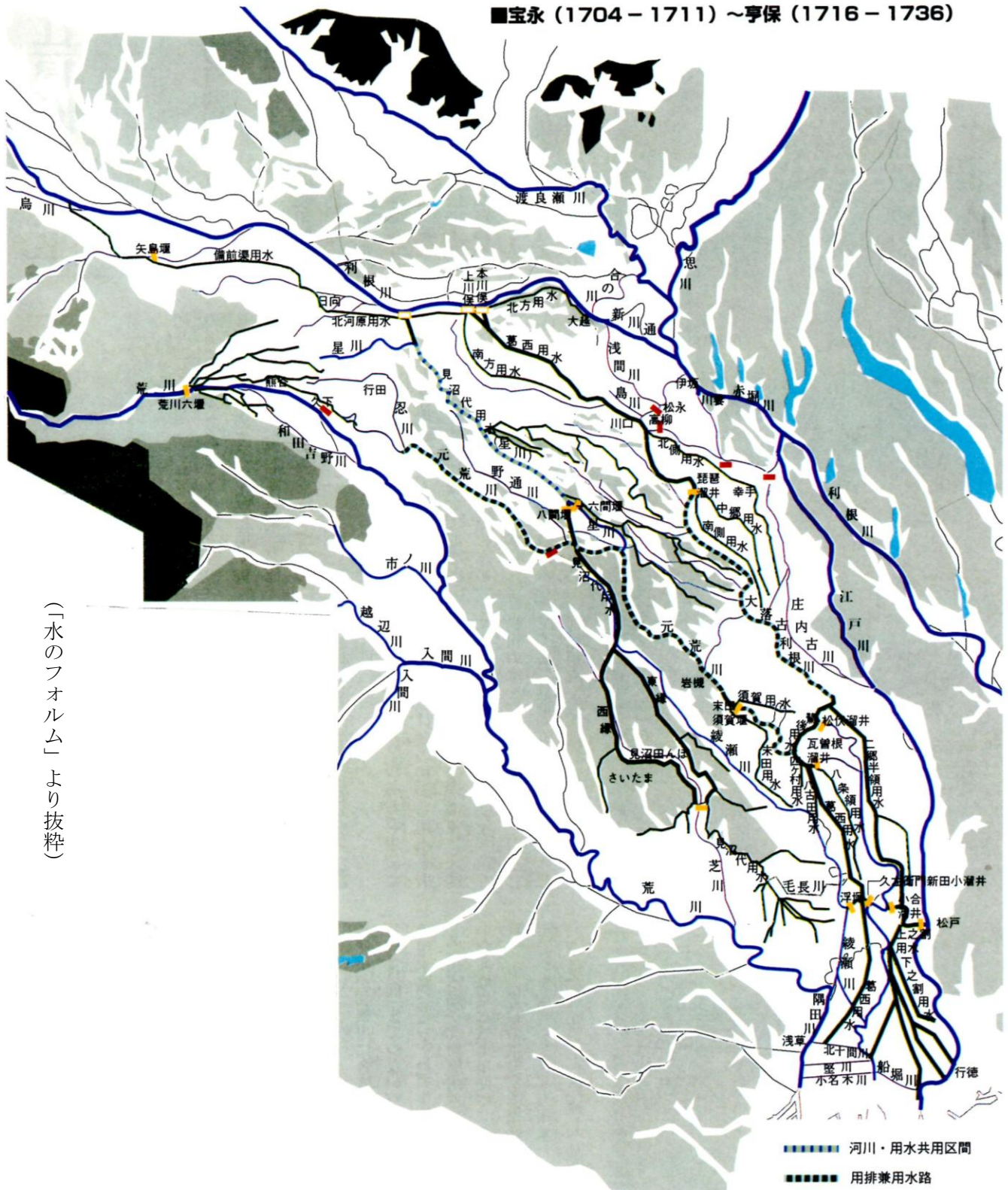


(「水のフォーラム」より抜粋)

- ・ 赤堀川の3度目の通水成功により**利根川東遷事業の完了**とされる (承応3年、1654)
川妻→釈迦沼→大山沼→水海 (みずうみ) 沼→長井戸沼→常陸川
- ・ 瓦曾根溜井から取水して流れてきた「葛西井堀」(後の葛西用水) は、圀川 (がけがわ、古綾瀬川) に造成した「久左衛門 (きゅうざえもん) 新田小溜井 (こためい)」に一旦落とし、それから亀有溜井に送った。
- ・ 綾瀬川の堰止め禁止→谷古田領では四ヶ村用水を堰上げ (水の流れを堰き止めて水かさを増す) して使う。
新たに谷古田井堀を開削し葛西井堀の元坎の西側に元坎を作る。

江戸時代中期の利根川と荒川

■宝永 (1704 - 1711) ~享保 (1716 - 1736)



(「水のフォーラム」より抜粋)

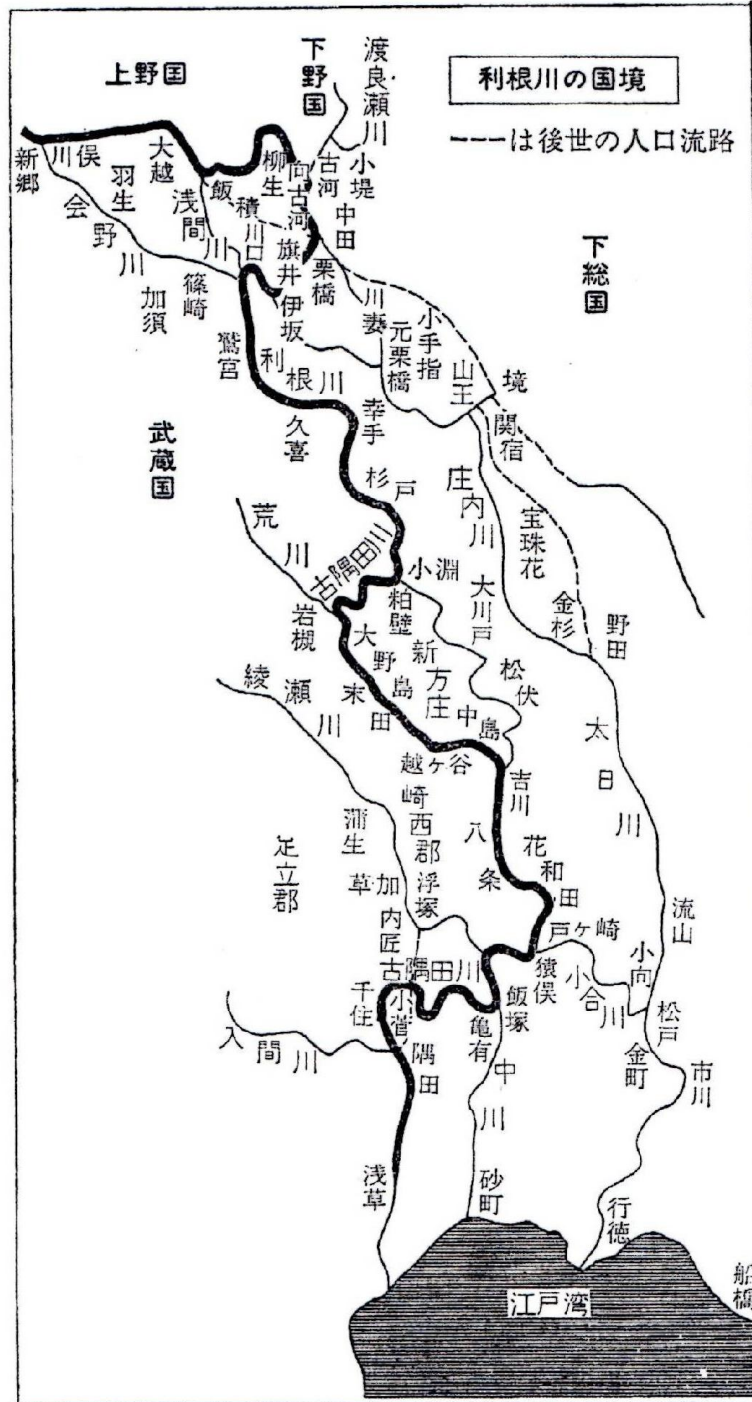
- ・宝永元年 (1704) の大洪水は、最初の記録。6月半ばから数回の大雨、7月に上川侯と権現堂付近で決壊、濁流が利根川旧流路伝いに南下、猿ヶ俣の堤防を破壊、江戸市中に流れ込む、行徳から浅草まで一面海。
- ・中島村一帯も埋まり中島用水に被害が出る。十五年後に願いが叶って上川侯に元塚を伏せ込み、葛西用水の取水口となり、本川侯に元塚がある幸手領用水につなげて、中島用水にかわる葛西用水ができる。本川侯と上川侯の二つの元塚、琵琶溜井、松伏溜井、瓦曾根溜井が葛西用水という1つの幹線用水路としてつながる。
- ・袋山の締切は宝永4年 (宝永3年説あり) である。

越谷市内とその周辺の河川の歴史

第2回 9月19日(水) 資料

古代の隅田川(利根川)

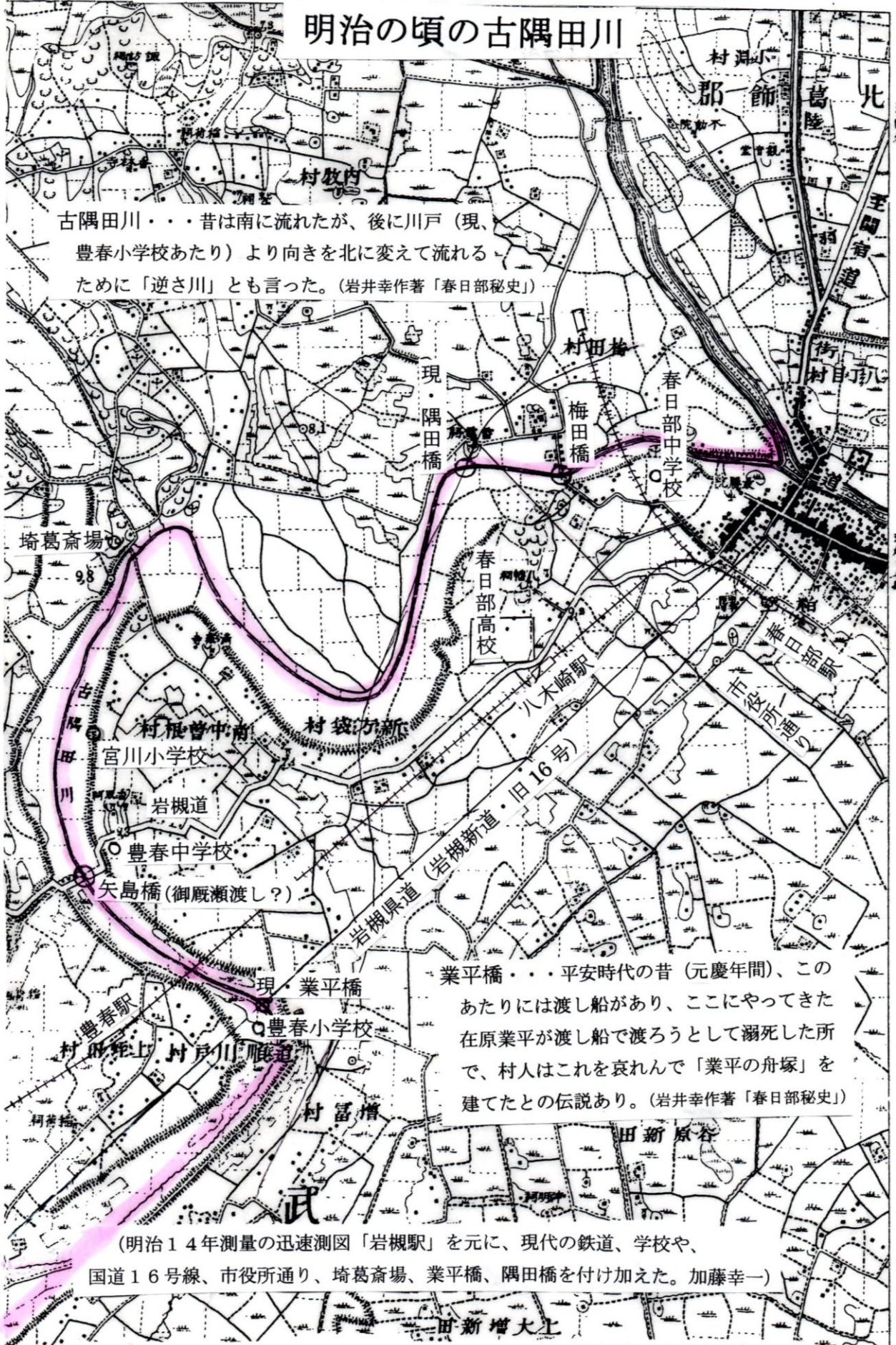
下図は、本間清利氏の「利根川」(埼玉新聞社)より抜粋した。



かつての隅田川(利根川)は、古利根川(春日部市)から古隅田川(春日部市)、元荒川(越谷市)、中川、古隅田川(足立区)、隅田川と流れていたと推定されている。

春日部市の新方領古隅田川その1

明治の頃の古隅田川

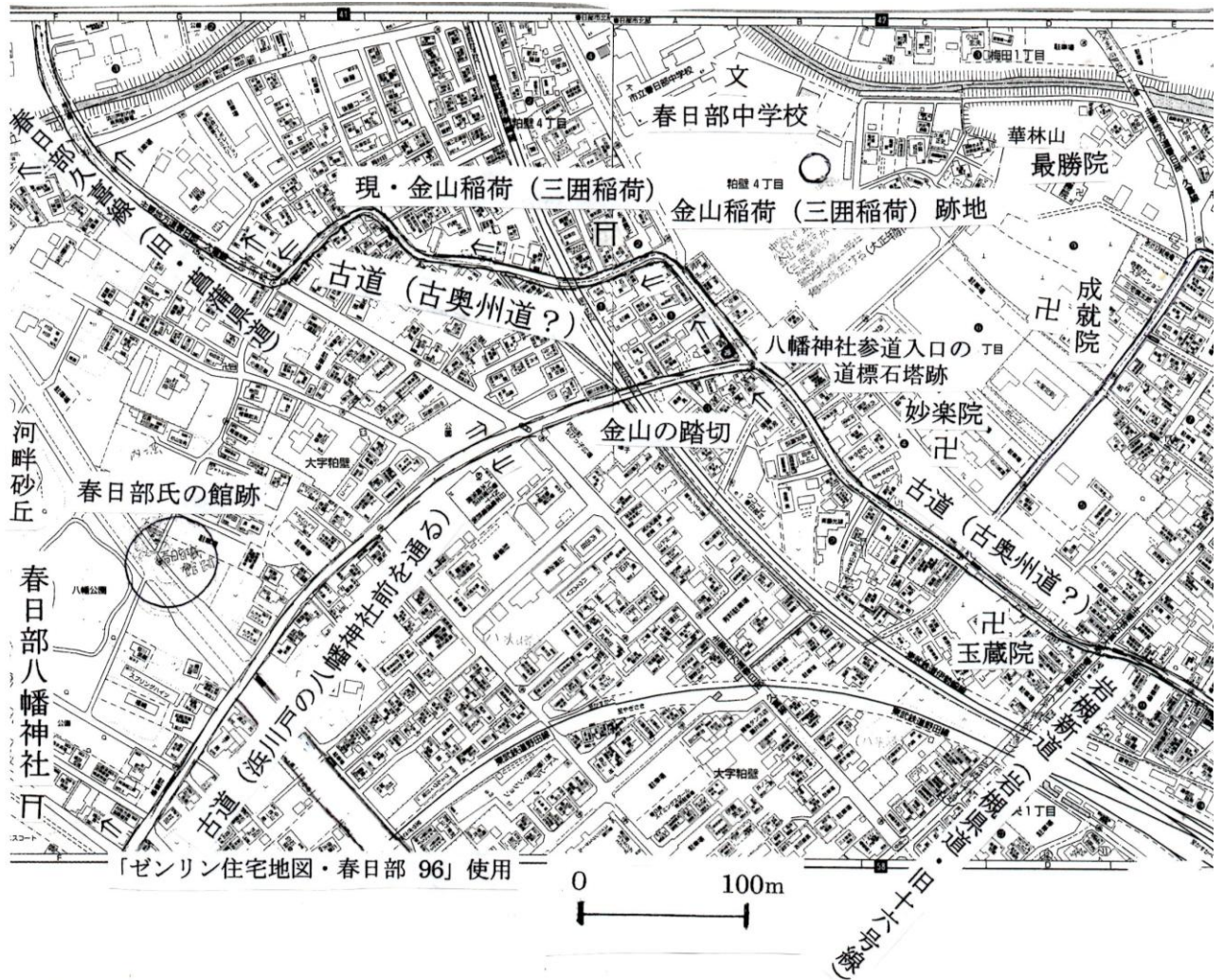


古隅田川・・・昔は南に流れたが、後に川戸（現、豊春小学校あたり）より向きを北に変えて流れるために「逆さ川」とも言った。（岩井幸著作「春日部秘史」）

業平橋・・・平安時代の昔（元慶年間）、このあたりには渡し船があり、ここにやってきた在原業平が渡し船で渡ろうとして溺死した所で、村人はこれを哀れんで「業平の舟塚」を建てたとの伝説あり。（岩井幸著作「春日部秘史」）

（明治14年測量の迅速測図「岩槻駅」を元に、現代の鉄道、学校や、国道16号線、市役所通り、埼玉斎場、業平橋、隅田橋を付け加えた。加藤幸一）

※古隅田川は、江戸時代は川幅が2～300メートルの大河であったことがわかる。



※上記の春日部八幡神社前の古道は、現在の国道16号の新方袋（いがたぶくろ）交差点や矢島橋を通過して、日光御成（おなり）街道、つまり、かつての鎌倉街道につながる道であったという。この古道は江戸時代以前からあったと伝わっている。その矢島橋は、古隅田川を渡るには、このあたりでは一つしかなかった橋であった。大口の金山堤からやってくる古道ともつながっていたのであろう。それゆえ、矢島橋は、交通の重要な地点といえる。

※上の地図で、現在の春日部駅そばから梅田橋方面に続く古道が江戸時代以前の草加市内の中川沿いや越谷市内の元荒川沿いからやってくる古奥州道と推定できる。

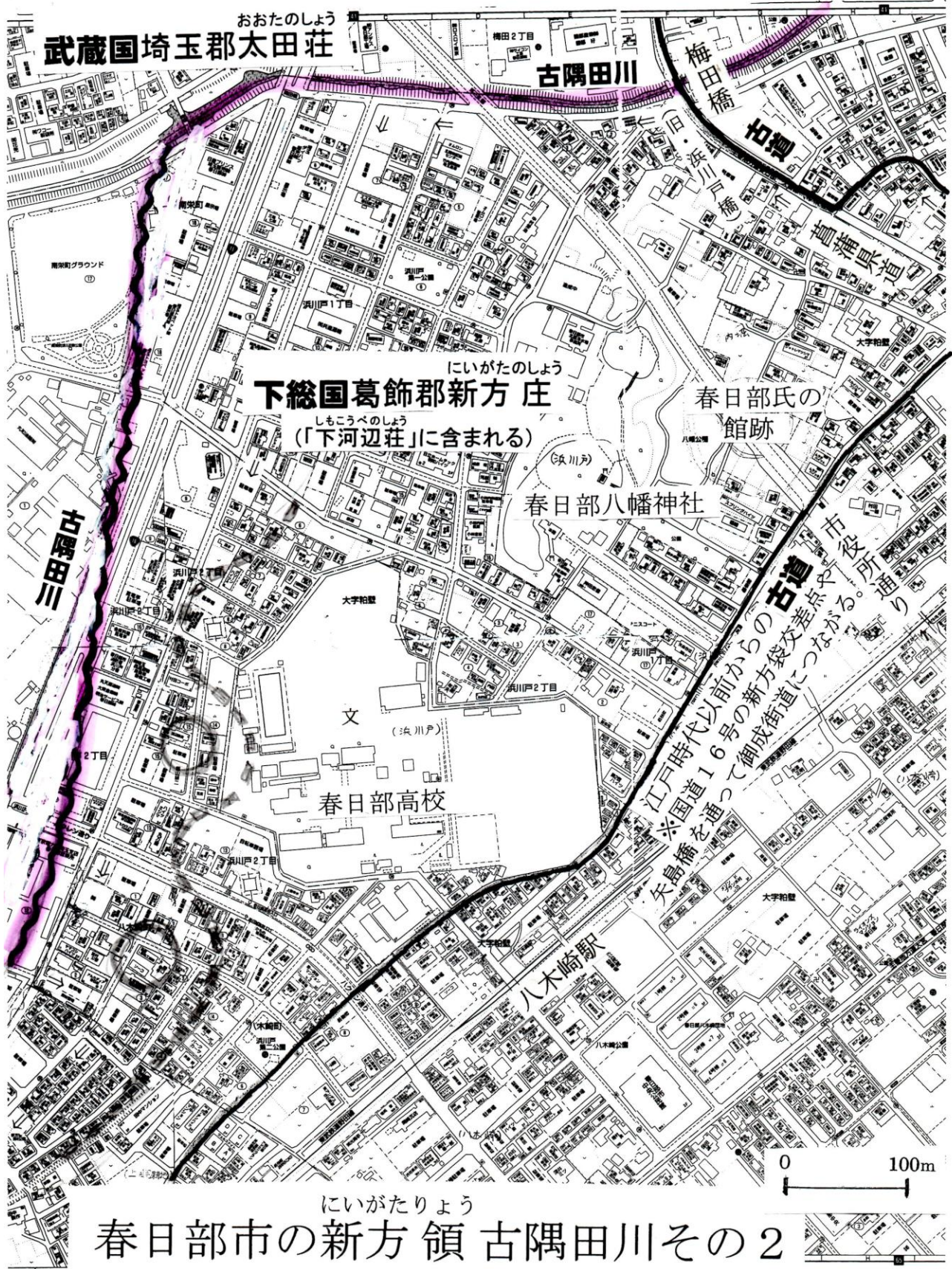
※「金山」の読み方は現在「かなやま」であるが、古くは「かねやま」と呼ばれたという。

※八幡神社参道入口の道標石塔が金山の地にあるのは、江戸時代、ここが交通の要所だったからと思われる。

※かつてこの近くの現在の春日部中学校の校庭あたりに金山稲荷（三囲稲荷）があって、信仰が盛んであった。現在は、大正年間に粕壁4-2-22と4-2-25の間に移転して現在に至っている。

平成24年9月4日

加藤幸一



おおたのしょう
武蔵国埼玉郡太田荘

古隅田川

梅田橋

和櫻

にいがたのしょう
下総国葛飾郡新方庄
しもこうべのしょう
(「下河辺荘」に含まれる)

春日部氏の館跡

春日部八幡神社

古隅田川

大字柏屋

文 (浜川戸)

春日部高校

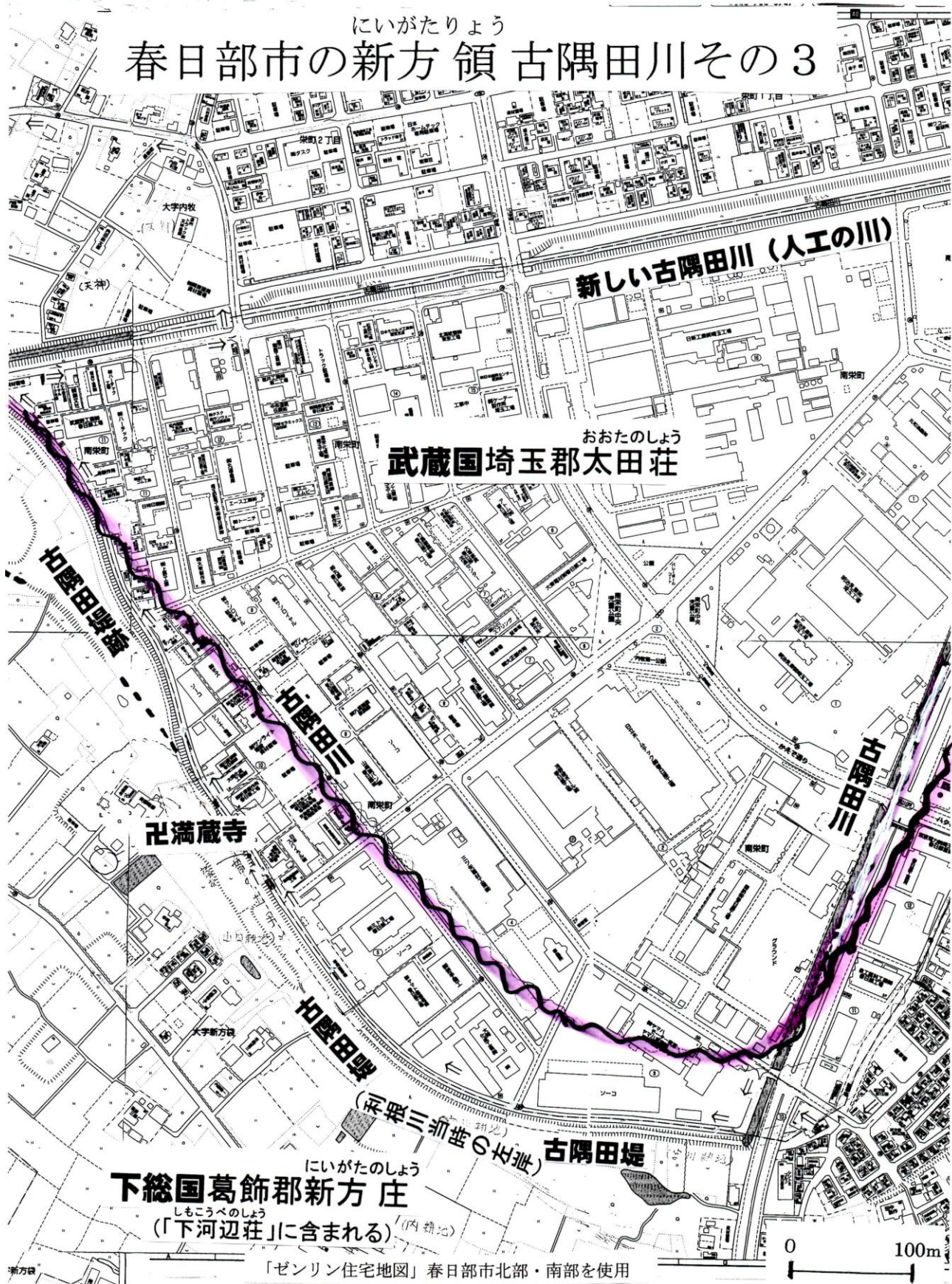
江戸時代以前からの古道
*国道16号の新方袋交差点や、所通り
矢島橋を通過して御成街道につながる。

八木崎駅

0 100m

にいがたりょう
春日部市の新方領 古隅田川その2

にいがたりょう
春日部市の新方領 古隅田川その3



おおたのしょう
武蔵国埼玉郡太田荘

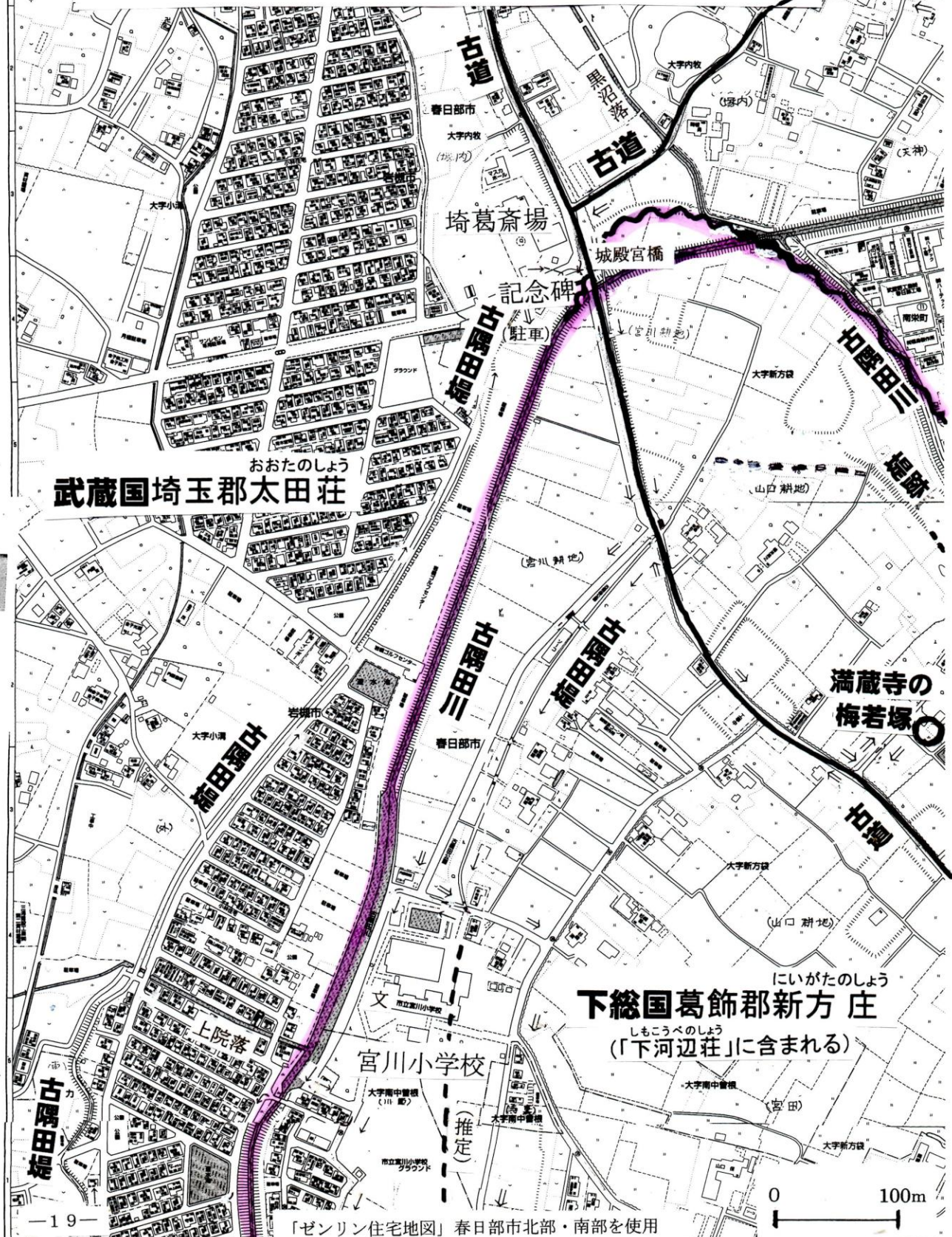
尼満蔵寺

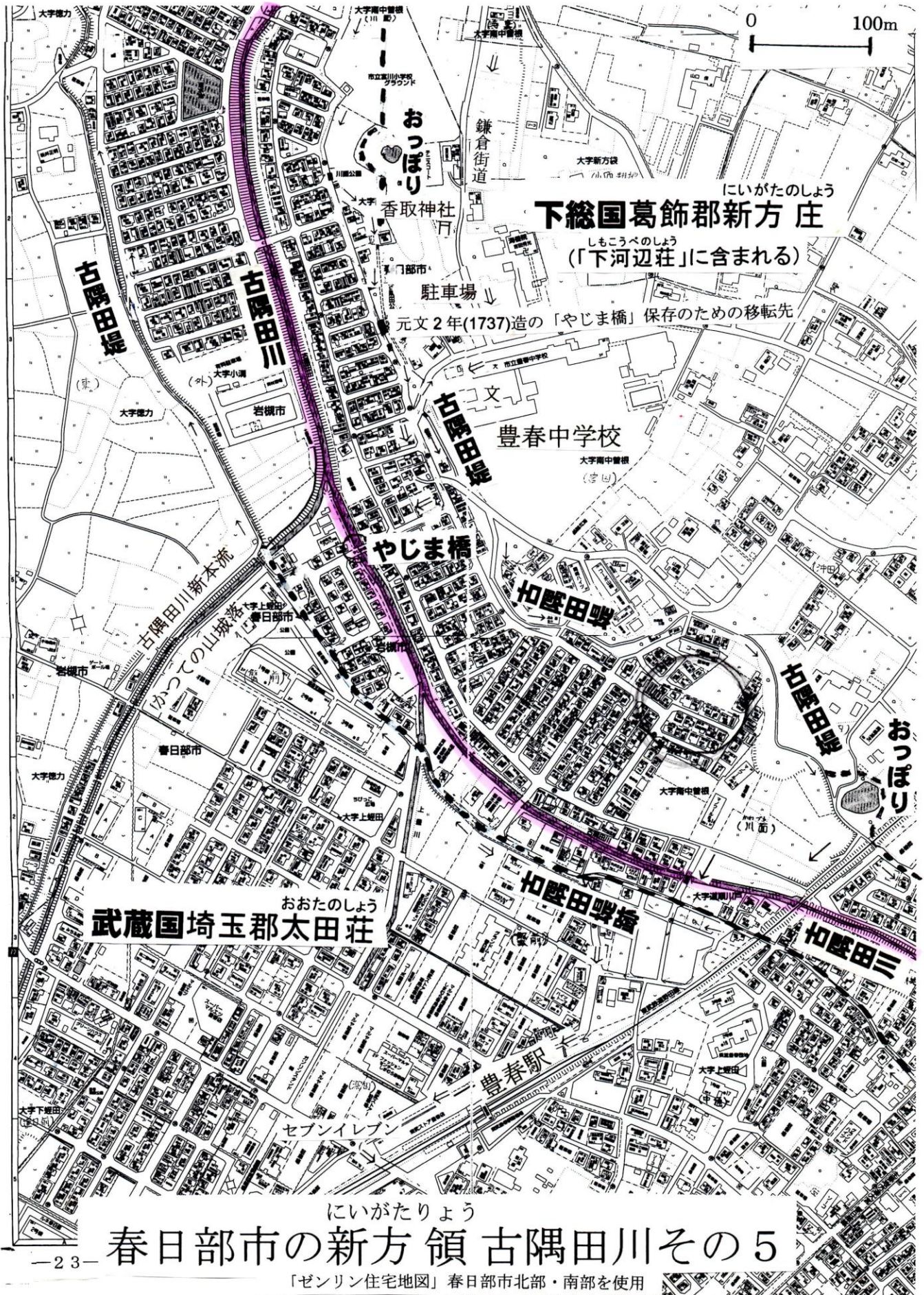
にいがたのしょう
下総国葛飾郡新方庄
しもこうべのしょう
('下河辺荘'に含まれる) (内新地)

「ゼンリン住宅地図」春日部市北部・南部を使用

0 100m

にいがたりょう
春日部市の新方領 古隅田川その4





にいがたのしょう
下総国葛飾郡新方庄

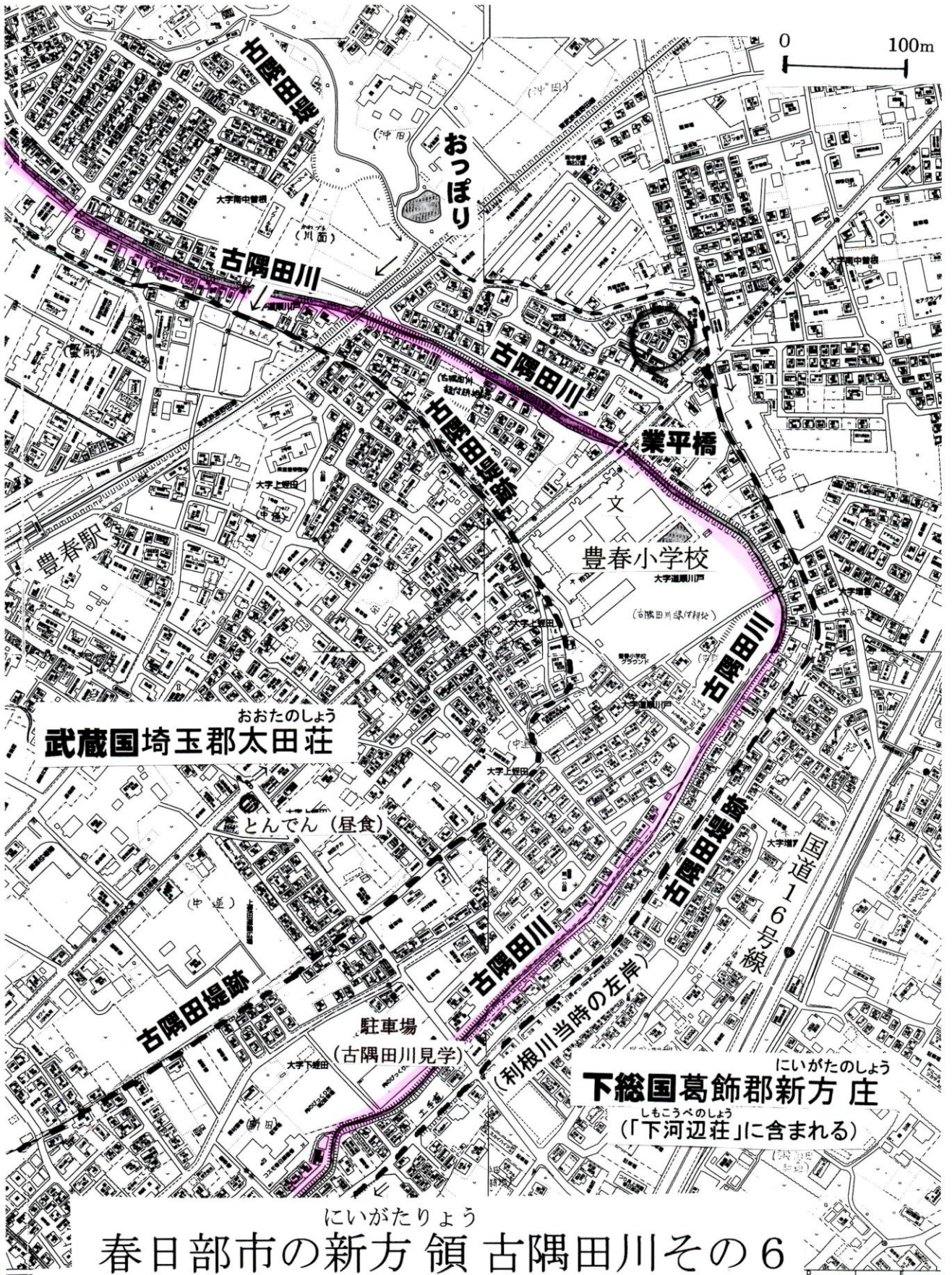
しもこうべのしょう
〔「下河辺荘」に含まれる〕

元文2年(1737)造の「やしま橋」保存のための移転先

おおたのしょう
武蔵国埼玉郡太田荘

にいがたりょう
春日部市の新方領 古隅田川その5

〔ゼンリン住宅地図〕 春日部市北部・南部を使用



おおたのしょう
武蔵国埼玉郡太田荘

とんでん (昼食)

古隅田堤跡

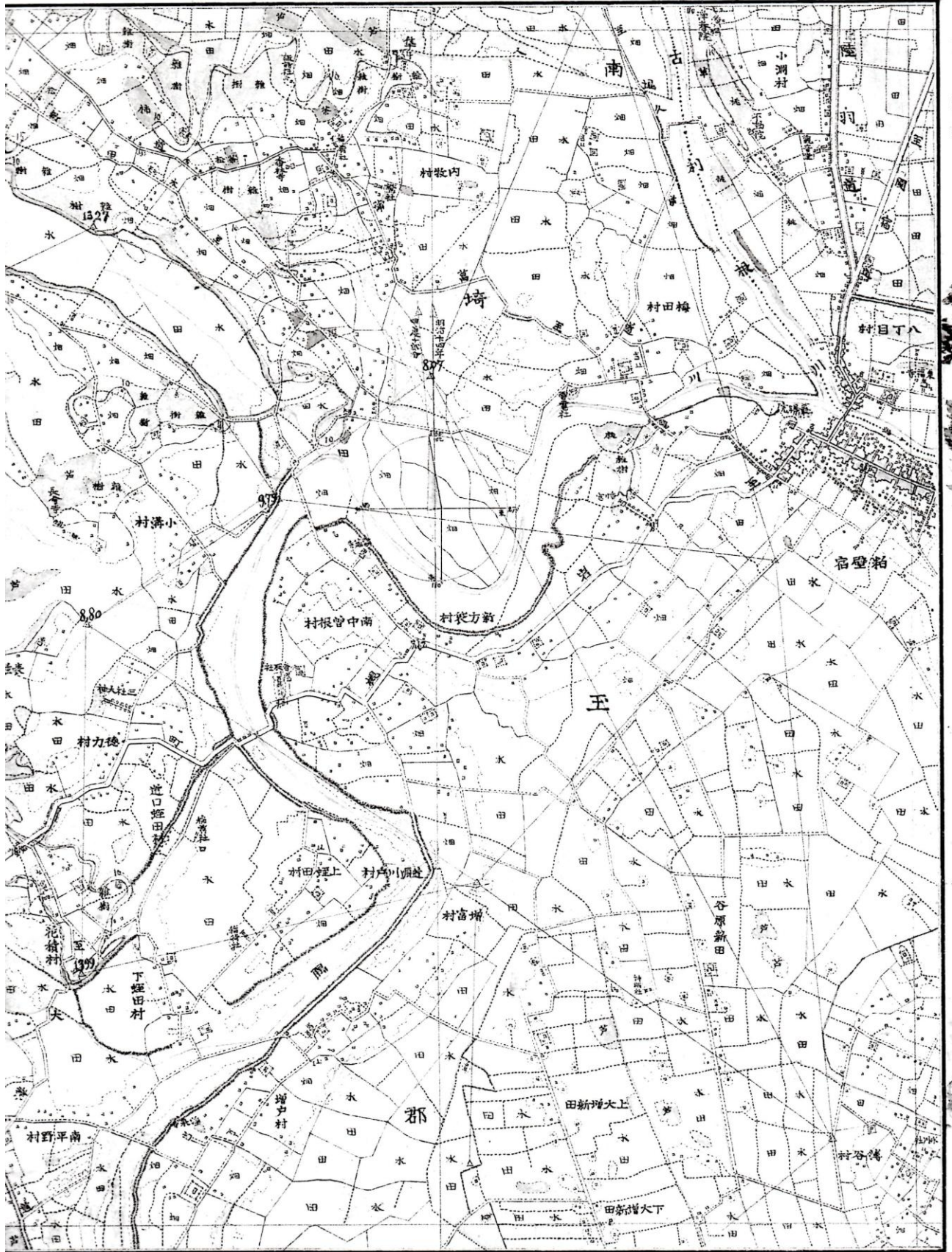
駐車場
 (古隅田川見学)

古隅田川
 (利根川当時の左岸)

にいがたのしょう
下総国葛飾郡新方庄
 しもこうべのしょう
 (「下河辺荘」に含まれる)

にいがたりょう
春日部市の新方領 古隅田川その6

落村傍近宿壁粕郡王埼南國藏武下縣王埼



第五号第五洲板

社青指



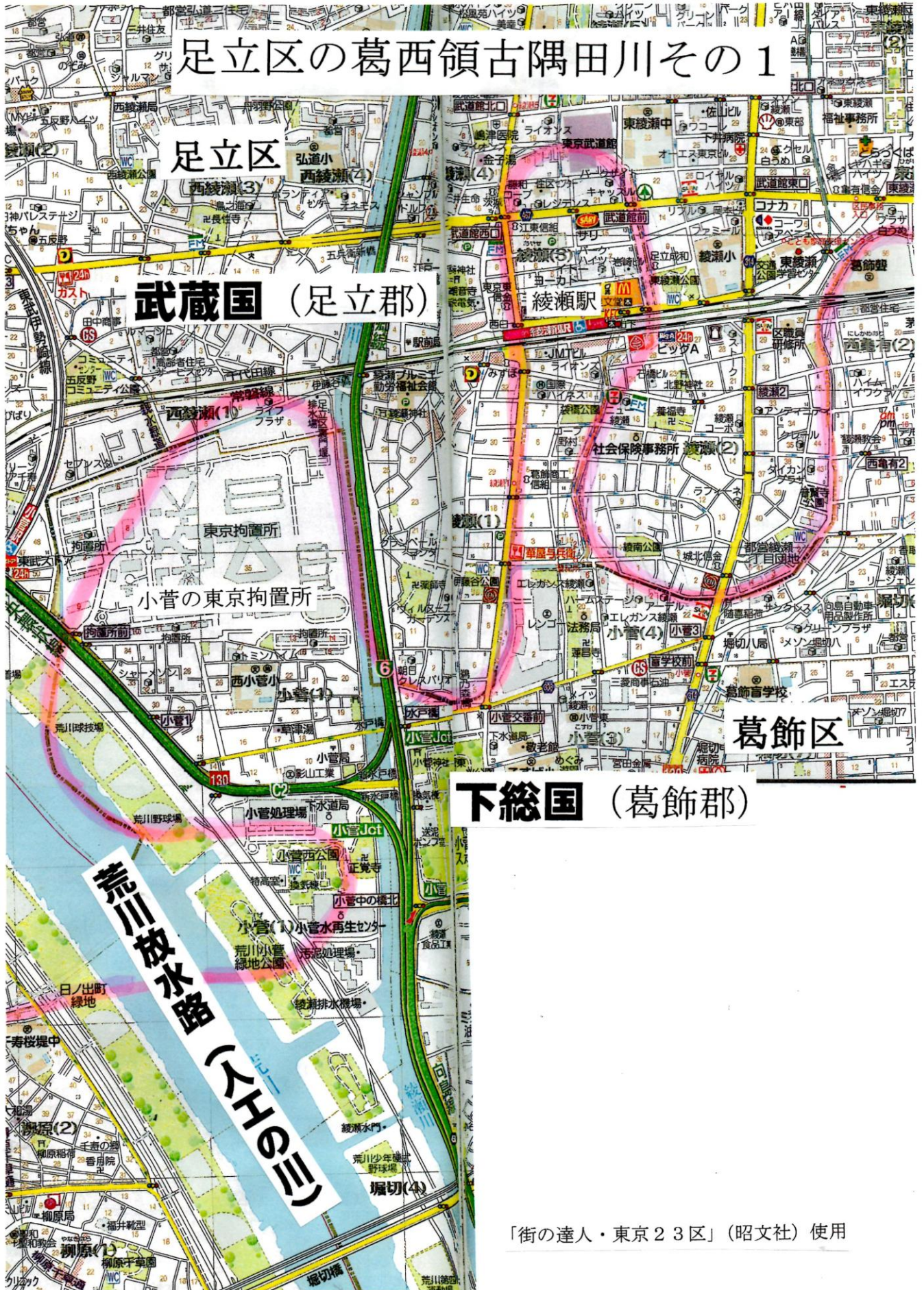
社



尺之一分二

離距考六寄米五

足立区の葛西領古隅田川その1



「街の達人・東京23区」(昭文社) 使用

足立区の葛西領古隅田川その2



武蔵国 (足立郡)

葛飾区

下総国 (葛飾郡)

足立区

入間川

荒川区

墨田区

荒川放水路 (入江の三)

現・木母寺

旧・木母寺跡

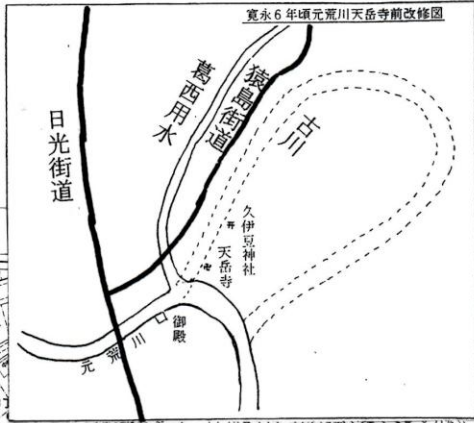
下総国 (葛飾郡)

水神社 (隅田川神社)

隅田川

「街の達人・東京23区」(昭文社) 使用

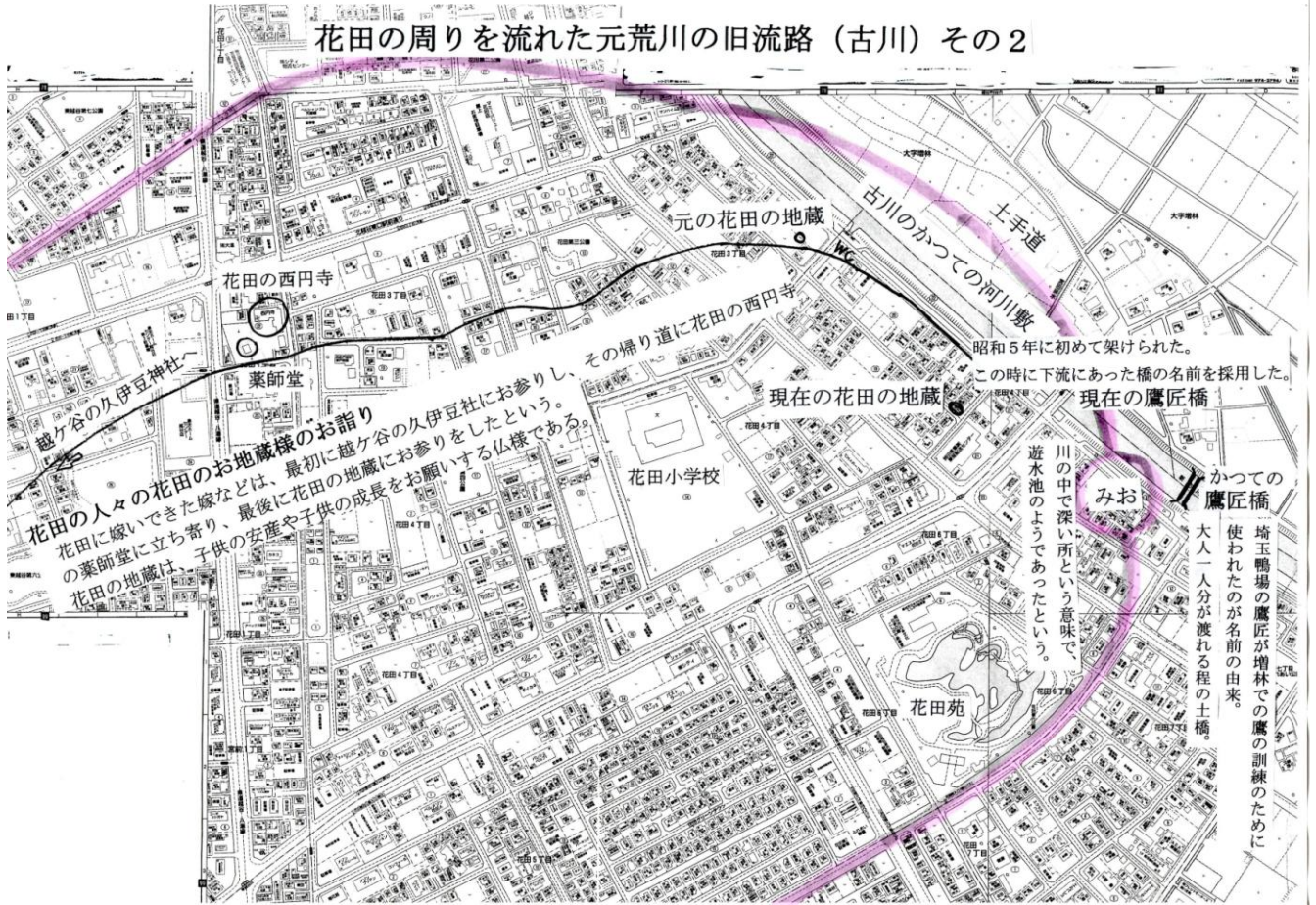
花田の周りを流れた元荒川の旧流路（古川） その1



現在の天嶽寺の裏の道はかつての古川右岸の地

元荒川が花田村の周りを天狗の鼻のように廻って流れていた。それが江戸時代初期に、元荒川の直道改修によって、今日のようになった。元荒川の直道改修の時期 越ヶ谷天嶽寺前の直道改修の時期は、荒川の熊谷の久下先の瀬替えや中島用水（現、鷲後用水・逆さ川）の開発と同一時期の寛永六年（一六二九）と推定されている。

花田の周りを流れた元荒川の旧流路（古川）その2



花田の周りを流れた元荒川の旧流路（古川）その3





スナッカラ地蔵の跡地



旧・スナッカラ地蔵と土手道 (秦野秀明氏提供)
裏は古川の河川敷「砂河原 (すなっから)」



旧・スナッカラ地蔵 (秦野秀明氏提供)
向かって右隅は花田第二樋門



移転後の現・スナッカラ地蔵



旧・城之上橋 (俗称、鷹匠橋) 跡地
現、花田第二樋門の北側にあった



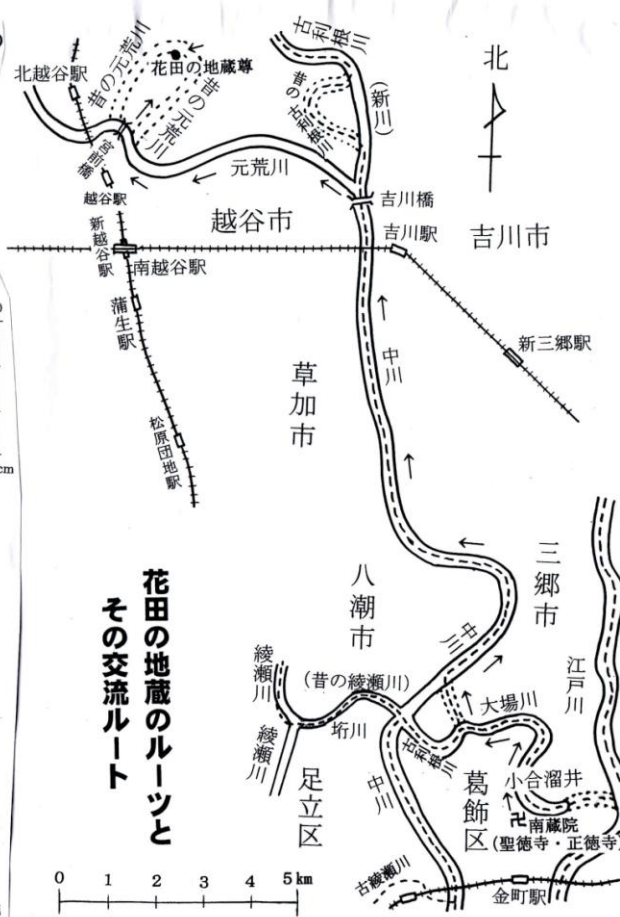
元荒川下流
向かって左端は東越谷一丁目ゲート
古川が花田を迂回し、ここに流れ注ぐ



正徳寺の承応三年の
(聖徳寺) (1654)
地蔵菩薩像



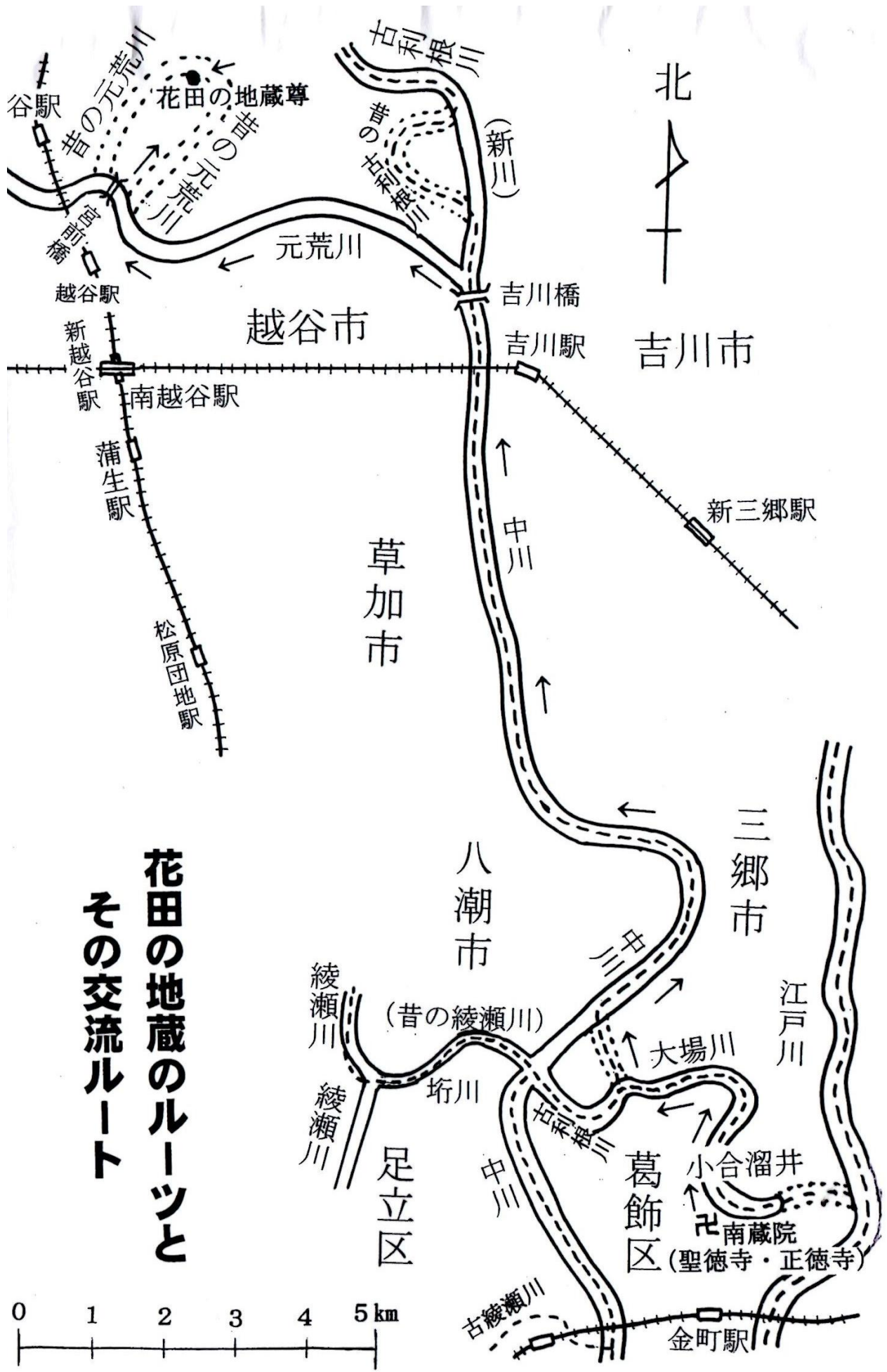
葛飾区東水元の「南蔵院」(しばられ地蔵) 墓地



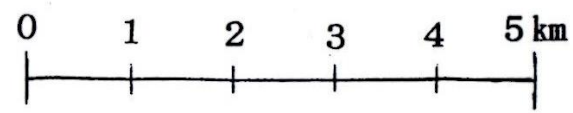
花田の地蔵のルートと
その交流ルート

承応四年の花田の地蔵
(スナッカラ地蔵)

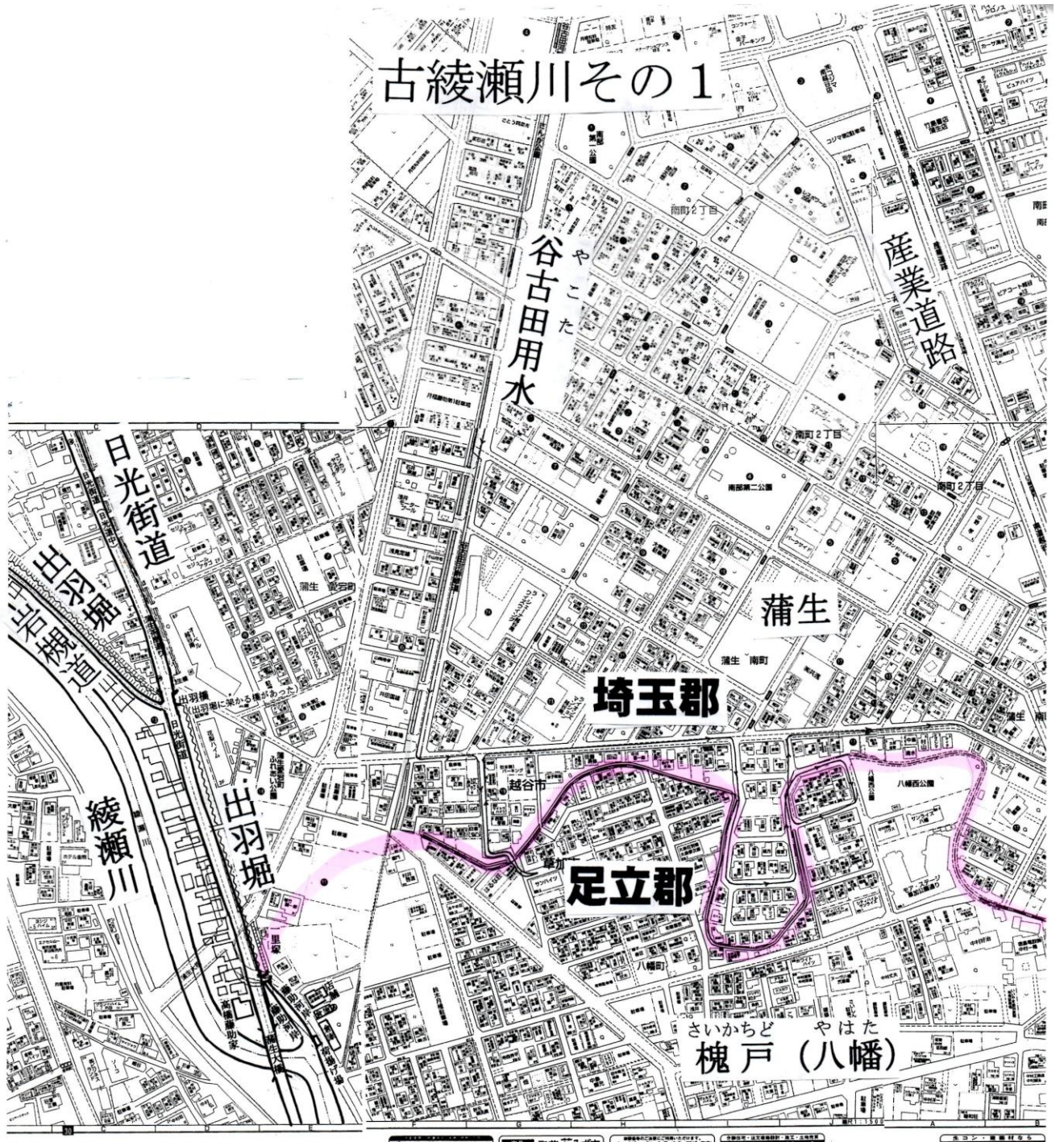




**花田の地蔵のルーツと
その交流ルート**

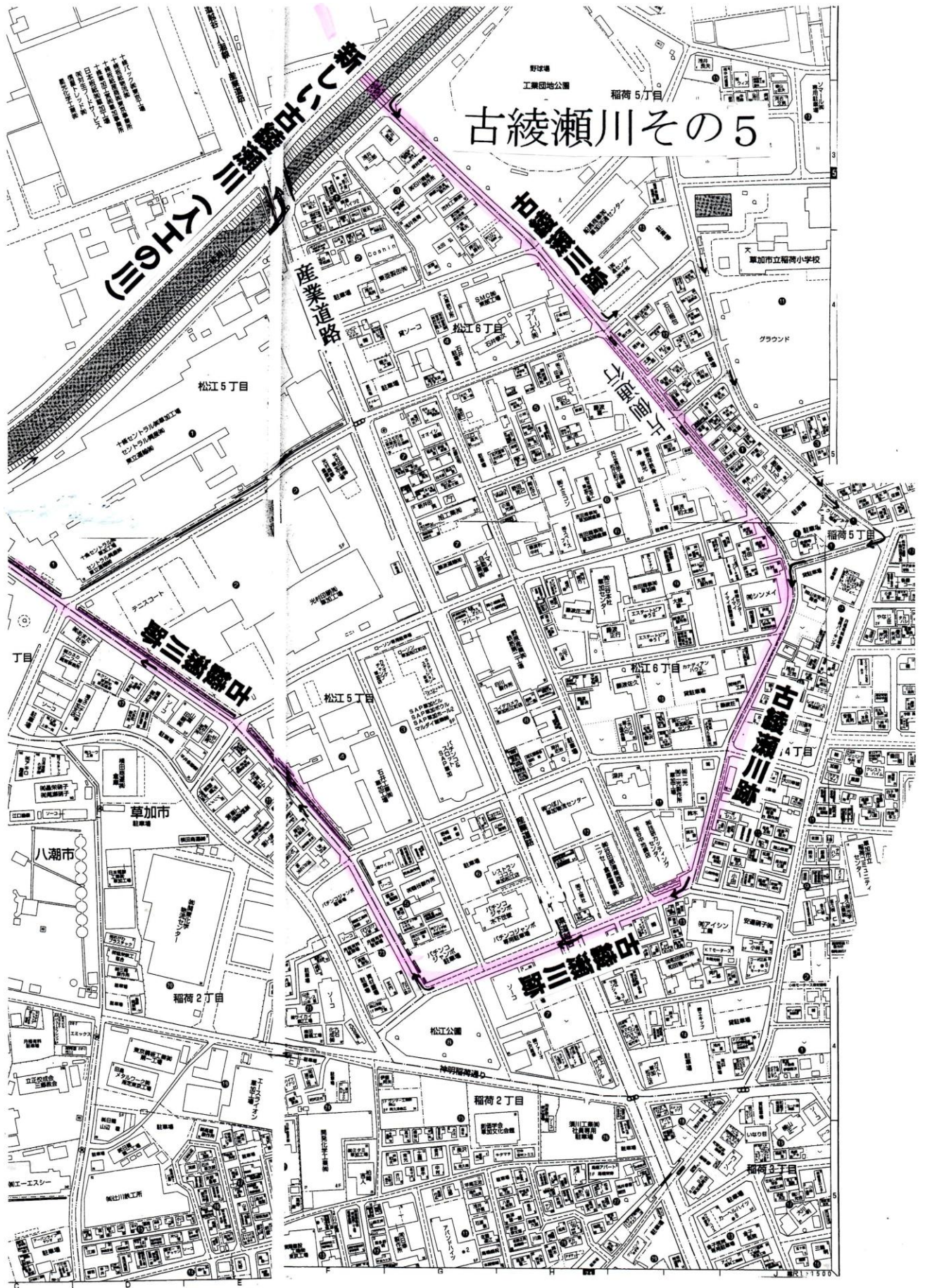


古綾瀬川その1





古綾瀬川その5



平成24年度越谷市立図書館郷土歴史講座の配布冊子

1. 表紙、平成24年度郷土歴史講座
2. 大宮台地とその北の館林台地
3. 古代・中世の頃
4. 古代の利根川
5. 越谷周辺の久伊豆社、香取社、氷川社
6. 江戸時代間近の利根川と荒川
7. 江戸幕府成立の前後
8. 江戸時代初期
9. 江戸時代前期
10. 江戸時代中期

送付2

1. 表紙
2. 新方領古隅田川その1
3. 地図、粕壁の八幡神社周辺
4. 新方領古隅田川その2
5. 新方領古隅田川その3
6. 新方領古隅田川その4

送付3

7. 新方領古隅田川その5
8. 新方領古隅田川その6
9. 明治の迅速図、粕壁宿
10. 明治の迅速図、大口村
11. 葛西領古隅田川その1

送付4

12. 葛西領古隅田川その2
13. 花田古川その1

送付5

14. 花田古川その2
15. 写真
16. 拡大写真と地蔵のスケッチ2つ
17. 花田の地蔵のルーツの地図